

令和2年度 中学生の「税についての作文」

東京国税局管内納税貯蓄組合連合会 会長賞

「生活の上で力となる税金」

柏市立柏第二中学校 三年 柏 栄輝

僕の祖母は昨年がんが二つも見つかり、長期入院、手術をすることになった。人工肛門を造設し抗がん剤、通院、検査など高額な治療費を支払わなければならなくなった時、助けてもらったのが税金だという事を母から聞いた。

高額療養費制度という、誰もが使える医療費を安く抑える方法だ。もしこの制度がなければ、年金で生活をしている祖父母にはとても支払うことの出来ない治療費で、今の生活すら保つことが出来なかったと、とても感謝している。また、人工肛門についても、身体障害者手帳を取得することにより人工肛門に必要な装具の補助、住民税や公共料金の割引も受けられているそうだ。

病気が見つかり落ちこんでいた祖父母が安心して治療に専念出来るのは、税金のおかげなのだと思った。

正直、税金は何のために、どのような事に使われているのか分からなかった。欲しいサッカーのスパイクなども消費税分が足りなくて購入を断念した事もあり、「消費税さえなければ。」と思った事もある。

でも、その税があるおかげで祖母の笑顔があり治療を受けられているのだと、何だかうれしい気持ちになった。

そして、自分も何度も税金の力を借りていたのだと、この作文を通して分かった。

小さい頃、熱が出る度にけいれんを起こし病院へ運んでくれた救急車。この救急車が患者の元に出動するのも税金で支えられている。けいれんの治療費は、子供医療費助成制度という健康保険加入者であれば、中学三年生まで入院、通院にかかる保険診療分の自己負担分を助成してくれる。このお金も税金である事。

僕たちは色々な場所で税金に支えられ、今の幸せな生活を送ることが出来ている。少しでも、「自分のお金は自分の事だけに使いたい。」と思った自分はずかしいと思った。

人は一人では生きられない。国民は税金によって守られているのだと知った。今後少子高齢化が進んで社会保障制度の中心となっていて年金や医療、介護などの費用が増えていく中で、自分にも今後出来る事はないか考えてみた。

国民三大義務である「納税」。病気になったときの補助や老後の生活の安心、子育てをしやすい環境づくりのために税金の大切さを忘れず、自分も大人になったら納税義務をしっかりと果たせるようにしたい。